

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	教育学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学習成果を継続的に把握するための方策の検討と情報交換の場を設ける。	→「学部のカリキュラムの教育成果を継続的に検討する委員会の有無と検討の進捗状況」	B	B	/	/	/
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.4.1	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。 (説明) 2012年度の完成年度に向けて、現行カリキュラムが学生の学習成果に結びついているかどうかを検証するために、1～2カ月に1度開催される各種科目担当者会、幼稚園教諭・保育士養成課程担当者会、小学校教員養成担当者会等で情報交換と課題の検討を行っている。学習成果を学生が卒業後にどのように活かそうとしているかを把握するために、2010年度の最高学年である2年生に対して進路希望調査を実施した。
☆ 小項目6.4.2	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。 (説明) 完成年度（2012年度）卒業予定者に対する卒業判定を適切に行うために、その方法について、学部長室会で具体案を検討する考えである。
その他	

《評価指標データ》

各学部における学生の進路状況
 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
 在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
 修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
 KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
 3年卒業の適用者数
 ジョイント・ディグリーの授与者数
 標準修業年限未満の修了者の数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.4.1	学生の学習成果を把握する方法
★小項目6.4.2	卒業判定方法
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.4.1	カリキュラムの教育成果を評価する指標として、学生のGPA値の分布を資料として活かす。年次の進行にそって、学生への進路希望調査を行い、その結果を評価する指標の一部として活用する。
★小項目6.4.2	卒業判定の方法について、カリキュラム委員会で素案を検討し、学部長室会に提案する考えである。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○完成年次に達していないので、評価には難しいところがあると思われませんが、「改善方策」6.4.1の試みは注目されます。

【学内委員】

○適切に点検評価が行われています。進路希望調査だけでは、教育学部の学習成果の1部しか測定できないのではないのでしょうか。実践力など教育学部の教育目標としている能力についても適切な調査を実施することを検討することが期待されます。

○進路希望調査の結果についてどのように考察され、それをどのように活かすのかの記述が求められます。

○完成年次前であっても、教育目標の成果は年次ごとに検証し、ある程度測れると思います。それらについての記述が望まれます。

○学位授与基準、学位授与手続きの確定が急がれます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.4.1

基盤評価：なし

達成度評価：「学生の学習成果を測定するための評価指標の開発及び教育内容・方法等の改善への活用に努めている」

○小項目6.4.2

基盤評価：「卒業・修了の要件を明確にし、あらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」「学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を明らかにし、これをあらかじめ学生が知ることができる状態にしていること」

達成度評価：「学位授与方針に従って学位授与を行っている」

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

《現状の説明》6.4.1に下記のように追記。

★ その結果をキャリアセンター分室などにおける進路指導時に活用している。